

※⁴は『早覚え』マニュアルの4ページ、185は『早覚え』の185ページ、36.5は問題文36ページの5行目を示す。

【問題文】 【問7資料】

「出典」問題文・曾鞏(そうきょう) 『墨池記(ぼくちき)』 問7資料・『晋書』 「王羲之の伝」

王羲之(おうぎし)303～361年)は東晋の政治家で書家。「書聖」と称され、その筆法は書を学ぶ者のお手本となる。曾鞏(1019～1083年)は北宋の政治家で文章家。

「書き下し文」※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

問題文

義之(ぎし)の書は、晚(おそ)くして乃(すなわ)ち善(よ)し。則(すなわ)ち能(よ)くする所は、蓋(けだ)し亦(また)た精力を以(もつ)て自ら致(いた)す者にして、天成に非(あら)ざるなり。然(しか)れども後世未(いま)だ能く及ぶ者有らざるは、豈(あ)に其の学ぶこと彼に如(し)かざるか。則(すなわ)ち学は固(もと)より豈(あ)に以て少(おろそか)にすべけんや。況(いわ)んや深く道徳に造(いた)らんと欲する者をや。

墨池(ぼくち)の上(ほとり)は、今は州の学舎と為(な)る。教授王君盛は、其の章(あらわ)れざるを恐るるや、晋の王右軍の墨池の六字を楹間(えいかん)に書し、以て之(これ)を掲(かか)ぐ。又(また)鞏(きょう)に告げて曰(いわ)く、「願わくは記有らんことを。」と。

王君の心を推(お)すに、豈(あ)に人の善を愛して、一能と雖(いえど)も以て廃せずして、因りて以て其の跡に及ぶか。其(それ)亦(また)其の事を推して以て其の学ぶ者を勉(はげま)さんと欲するか。

夫(それ)人の一能有りて後人(こうじん)をして之(これ)を尚(たつと)ばしむること此(かく)のごとし。況(いわ)んや仁人莊士の遺風余思、来世に被(こうむ)る者如何(いかん)ぞや。

問7資料

云(い)わく、「張芝(ちようし)池に臨(のぞ)みて書を学び、池水(ちすい)尽(ことごと)く黒(くろ)し。人をして之(これ)に耽(ふけ)ることは是(か)くの若(ごと)くならしめば、未(いま)だ必ずしも之(これ)に後(おく)れざるなり。」と。

〔現代語訳〕()内は訳者の補足。

『墨池記』全文

臨川(という町)の東に「新城」という小高い丘があり横に溪流がある。丘の上に長方形の浅い池があり、「王羲之(おうぎし)の墨池(ぼくち)」と言われている。荀伯子の『臨川記』では「王羲之は張芝の『池に臨んで書を学び池水尽(ことごと)く黒し』という精神を慕った。ここがその跡である。」とある。

はたしてこれは本当だろうか？強いて仕官を求めなかった時、王羲之は東方をめぐり東海に遊び、山水の間にあつて歓楽を尽くした。遊覧に耽りその境涯にとどまったままだったのだろうか？

〔以下問題文〕

王羲之の書は、晩年になってはじめてすばらしい(水準に達した)。したがって、書のすばらしさは(これも)また自分が努力したためであり、天が完成した(天賦の才能によるもの)ではない。

しかし、まだ王羲之に匹敵する者があらわれないのは、おそらく修練が彼に及ばないためだろう。したがって、学ぶことはそもそも怠ってよいはずはなく、まして道徳を極めようとする者(にとって)学習が大切なこと(は)いうまでもない。

墨池(ぼくち)のほとは、今は州の学舎となっている。教授の王盛氏は、そのこと(池が墨で黒くなるまで修行した張芝を王羲之が敬慕したこと)が知られないのを心配して、「晋王右軍墨池」の六字を書いた額(がく)を正門に掲(か)か(げ)、さらに私に「(由来について)一文を書いていただけないでしょうか。」と言った。

王氏の心中を察するに、人の長所を大切にし、秀でたところが一つであつてもそれを伸ばして王羲之に追いつこうとするのか。あるいは王羲之の努力を薦(すす)めて学生たちを励まそうとするのか。

思うに、あまりにすぐれた一つの才能を後の人が尊重することでさえいふのだから、仁愛あふれた人や行いの立派な人の後世への感化を未来で受ける者はどうだろうか。(いうまでもなく尊重する。)

「問題文おわり」

慶暦八年(一〇四八年)九月十二日 曾鞏記す

※訳注

乃(すなわ)ち――してはじめて

則――なので。前の文を原因として結果を示す。

蓋(けだ)し――前文の理由・原因を述べる。

精力―精神を集中して努力する。

天成―人為によらず自然に完成される。『莊子・寓言』。「天成」と「精力」は対比されている。

豈―問題文も含めて『墨池記』全文で「豈」は五回使用されており、「か? いや」という反語のほか、「はたしてか?」「おそらくだろうか?」と訳すべき箇所がある。詳細は問3で解説した。

人之有：如此―直訳では「人で一能があつて後世の人にこのことを尊重させることがこのようだ」となり意味不明なので意識した。

「況」の前後について―「況(いわんや)」は「A(スラ)B 況んやC…AでさえBだから、CがBであるの言うまでもない。」

本文では次のように「AでさえBだから、Cはどうか?いうまでもなくBだ。」となっている。

Aすら Bかくのごとし…このようだ。

況(いわんや)

Cは いかんぞや…どうか?いうまでもなくBだ。

A||人之有一能而使後人尚之

C||仁人莊士之遺風余思被於来世者

問7資料

(王羲之は手紙で)「張芝(ちようし)は池のほとりてに書を練習し、池の水が全部(墨で)黒くなった。ここまでのめりこめば、彼に追いつけないわけでもない。」と言った。

【解説】※本番での説き方を再現するので、解答の順は前後する。

筆者の主張をつかむ¹⁷⁴

ステップ1―最初の2行を読む

説明・注で正解つかめ! 176

により問題文の最初の2行を説明文「書家王羲之(おうぎし)」「で補うと次のとおり。

※理解のため、歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更し、一部の漢字はひらがなとし、問題となっている箇所は○とした。

書家(王)羲之の書は、○○○。すなわち能(よ)くするところは、蓋(けだ)し(思うに)また精力をもって自(みずか)ら致(いた)すものにして、天成にあらざるなり。然(しか)れども後世(以下問題なので読まない)

ステップ2——最後の3行を読む

問題文の最後の3行を(注)67で補うと次のとおり。

それまたその事を推(お)してもってその学ぶ者をはげまさんと欲する○。(以下は問題なので読まない)仁愛の徳を備えた人や行いの立派な者の後世に及ぶ感化、いわんや来世にこうむる者如何(いかん)ぞ○。

ステップ3——最後の問7の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉を探すと、次のように「内が同じだ。

なお、「熟語による翻訳」で正解つかめ!E10により「精力」は「精進(しゅうじん)努力」とした。

また、問7で漢文が登場するが、ステップ2で漢文を3行読んだから、これはアトマワシ。

ステップ1 「精進(しゅうじん)努力をもつて自ら致(いた)す」

ステップ2 「学ぶ者をはげまさんと欲する」

ステップ3

②「修練の大切さ」

③「練習によって…大成」

④「修練をして追いつきたい」 b「人心 馬に調(かな)い」

「内はいずれも努力練習を強調しているが、①は「稽古を重ねたが…肩を並べることができない」として努力を否定している。

したがって、「内容に合致しないものを」選ぶ答えとしての正解候補は①。

⑤は内容不明なのでこれも正解候補としておく。そして筆者の主張の一部は、

「修練の大切さ」 「練習によって…大成」問7②③だろう。これで十分。これが大事。ここで

退却ルール³ 三分以内に主張をつかむ作業をやめて最初にもどる
を実行し、あとは、「修練！練習！」を念頭において最初から読んでいく。

問1(ア)〔主張〕

「乃(すなわ)ち」の意味は「かえって・そこで」150の二つがあるのでむずかしい。

でも主張の一部は、最初の作業でつかんだ「修練の大切さ」だから、

王羲之の書は(修練を重ねた)「年をとってから(の書)こそがすばらしい」^②
という選択肢しかありえない。
漢字の意味で迷っても、主張をつかめば解けるようになっていく。

問2〔対比〕〔主張〕〔漢〕

対比に注意³すると、空欄Xを含む文とその前の文は、次のようにxとyの対比になっている。

王羲之の書は

x 精進(しょうじん)努力をもつて自ら致す者にして天成にあらざるなり|| 「練習
によって…大成」^{問7③}したものだ

然(しか)れども|| しかし

y 後世よく及ぶ者あり|| 「X」

xが「練習によって…大成」なので、その反対のyは「及ぶ」の否定になる。
したがって空欄「X」は否定になり、否定は③「未(いま)だらず」¹⁴²しかない
のでこれが正解。

問3〔比較〕〔らるる〕〔ノミ〕〔ンバ〕〔シテ〕

「不^レ如^ニ：如^シかず」は「比較」38で「^レに及ばない」の①。

「豈^{（あ）}に」は反語56または詠嘆72だが、反語が選択肢にないのでそれぞれの句法で確認する。

②受身22③限定94⑤仮定112⑥使役10を示す漢字はどこにもないので正解は④か？本番の作業ではここまでで終了する。

以下は速答後の解説

この問題は簡単か？いやそうではない。難問だ！

「豈」は、「^レか？^レではない。」という反語の用例が多い。しかし、前半部分だけの「^レか？」に推量を加えた「おそろく^レか？」という用例もある。

たとえば、のちに始皇帝となる秦王を刺殺する計画では次のとおり。

例・豈^{（あ）}に意有^{（あ）}るか。豈有^{（あ）}レ意興^{（あ）}。その気がありますか？（多分そのつもりでしょう）『戦国策・燕策』

傍線部Aの豈を「推量＋疑問」とすると次のように主張と合致する。

主張

練習によって…大成^{（あ）}（できる）^{問7③}

傍線部Aの前後

しかし（王義之の）後の世で（王義之に）及ぶことができる者がまだいないのは、その学習（練習）が彼（王義之）に及ばない（ため）か？（たぶんそうだろう。）

したがって④が正解なのだが、

- ・推量疑問の「豈」を知っている受験生はいない。
- ・知っていても瞬時に正答できる受験生はいない。
- ・だから、消去法でいくしかない。

余計な情報を記憶しないで必要な知識に集中する。これが合理的だ。

問1(イ)〔ンヤ〕〔主張〕

「豈」は反語56だから「どうして〜か。いや〜」で、④「どうして努力を怠ってよいだろうか。(いや努力すべきだ)」が正解だろう。

最初につかんだ主張「修練の大切さ」とも一致するのでまちがいない。

問4(ラヤ)

「況(いわ)んや〜:まして〜は言うまでもない」抑揚126なので、正解は「まして〜はなおさら(であり、いままら言うまでもない)」の②④。

②「できない」に相当する否定が傍線部にならないので④が正解。

問5(主張)〔注〕〔ンヤ〕〔疑?〕

説明・注で正解つかめ!176

によつて注12を使うと、傍線部Cの「王君の心」は、「州に設置された学校の教授の王盛の心」だ。

そして最初につかんだ主張は

・修練の大切さ問7②

・練習によつて…大成問7③

・修練をして追いつきたい問7④

なので、王先生が学生に「修練の大切さ」を強調して

②「学生たちを奮起させよう」

が正解だろう。

①「一握りの…者を優遇することなく」は「平等」の主張。

③「学舎の…振興」は学校発展の主張。

④は「王義之の天賦の才能」が「練習によつて…大成」と正反対。

⑤「学舎の…歴史を書いてもらおう」は「修練」と無縁。

〔以下は速答後の解説〕

傍線部Cの「王君の心を推すに」の「推」は

「熟語による翻訳」で正解つかめ！170

により「推量」の意味だろう。

したがって「王君の心を推量するに」となり、それ以降が王君の心だ。

「豈」36.5は反語詠嘆に使うが、文末は「未然形+んや」反語「(ず)や」詠嘆の
はず。しかし文末は「及ぶ」36.6(終止形か連体形)「欲する」36.6(連体形)。
文末が連体形なら「疑問」だが、推量の内容だから「くだらうか？」の疑問と
するしかない。

したがって王教授の心を示す部分の訓読は次のとおり。

人の善(長所)を愛して、一能(才能ある者が一人)といえども、もって廃せず
して(見捨てないで)、因りてもって其の跡(王義之が努力したこと)に及ぶ(追
いつく)か？其れ亦た其の事(王義之が努力したこと)を推して(推薦…推(お)し
薦(すす)めて)其の学ぶ者(王先生の学生)を上げまさんと欲するか？

※跡 36.6 || 事跡 || 事 邪 || か 36.6

このように、「豈」を疑問と考えて問題ない。しかし、このような作業は試
験時間内にはできない。

問6 (シテ)

「使」は「使役」10で、「AをしてB(せ)しむ」だから「後人をして之(こ
れ)を尙(たつと)ばしむ」の③④。

④「人をく」ならば「動詞レ人ヲ」の通常の語順だが、そうではないので④
が落ちて③が正解。

余裕があれば訳して確かめるが、本番でそんな時間はない。

問7〔主張〕

最初の作業での正解候補は①と⑤。原文を注345で補うと次のとおり。

王君盛は…晋の王義之(おうぎし)の墨池の六字を家屋の正面の大きな柱に書し
…曾鞏(そうきよう)に告げていわく「ねがわくは、記あらんこと」と。36.4~5

これは⑤に合致する。したがって、合致しないものを選ぶ正解は①。

以上